

## 柔道整復科

## 施術概論 2

対象	2年次	開講期	後期	区分	必	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	富田泰彦			実務経験	有	職種	医師（病院にて勤務）				

## 授業概要

部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方法について学ぶ。

## 到達目標

医療機関では、患者がもっている精神的・肉体的異常を、まず正確に把握しなければならず、こうした医療行為が診察であり、それにより患者が健康に復帰するために行う処置、すなわち治療を施すための根拠が得られることになる。診察から診断について学ぶことで柔道整復師本来の業務範囲に活用できることが目標である。

## 授業方法

教科書を中心として授業を進める。医療従事者は症状・診断法・注意すべき顔貌や愁訴など、いくつかの疾患を念頭に置きながら、それらのなかからその患者に最も妥当と考えられる疾患名を判定できる能力を必要とされる。柔道整復師として臨床現場においても求められる鑑別診断の知識を、内科学を学ぶことで育成する。

## 成績評価方法

試験と課題を総合的に評価する。

## 履修上の注意

国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な応対ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の1以上欠席した者は定期試験を受験することができない。

## 教科書教材

教科書（一般臨床医学第2版-社団法人 全国柔道整復学校協会 監修-）に準拠する。

回数	授業計画
第1回	主要な疾患①（かぜ症候群・肺炎・肺結核症・気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患）
第2回	主要な疾患②（肺血栓塞栓症・肺腫瘍・胸郭異常・気胸）
第3回	主要な疾患③（ファロー四徴症・狭心症・心筋梗塞・不整脈など）

第4回	主要な疾患④（高血圧・大動脈瘤・レイノ一症候群など）
第5回	主要な疾患⑤消化器系疾患総論・食道癌・消化性潰瘍・胃癌など)
第6回	主要な疾患⑥（虫垂炎・腸閉塞・クローン病・大腸癌など）
第7回	主要な疾患⑦（黄疸・腹水・急性ウイルス肝炎・肝硬変・肝癌・胆石・胆癌・膵癌など）
第8回	7回までの振り返りと確認演習
第9回	主要な疾患⑧（糖尿病・脂質異常症・痛風・ビタミン欠乏症など）
第10回	主要な疾患⑨（ヘモクロマトーシス・骨粗鬆症・骨軟化症など）
第11回	主要な疾患⑩（内分泌疾患総論と間脳・下垂体機能障害）
第12回	主要な疾患⑪（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副甲状腺疾患）
第13回	主要な疾患⑫（クッシング症候群、アジソン病、原発性アルデステロン血症など）
第14回	13回までの振り返りと確認演習
第15回	主要な疾患⑬性腺疾患（副腎性器症候群やクラインフェルター/ターナー症候群など）